



目 次

新年に当たって (小沢良和) ・ 1

研究の成果

バラ切り花の輸送温度および輸送時間が花持ちに及ぼす影響 (紺谷 均) ・ 2

センリョウの新挿し木法について (古屋拳幸) ・ 3

シネンシス系デルフィニウムの促成栽培における定植適期 (宮前治加) ・ 4



LAハイブリッドユリの品種比較(暖地園芸センター温室)

新年に当たって

暖地園芸センター所長 小沢良和

和歌山県暖地園芸センターは昭和62年6月に「県暖地園芸総合指導センター」として開設され、今年で20年目を迎えます。

この間、収益性の高い園芸農業の振興を目指し、バラやスターチスなどの花きやエンドウの栽培技術開発、バイオテクノロジー利用によるオリジナル品種育成を重点に試験研究を実施してまいりました。

近年は、早生系のエンドウ新品種「紀の輝」の産地化を目指した栽培技術の検討、花き新品目としてデルフィニウムやハイブリッドユリなどの栽培法確立と産地への普及推進、新しい流通法として定着しつつあるバケット輸

送におけるバラ、シュッコンカスミソウの品質保持技術開発などに取り組んでおります。

また、オリジナル品種開発では、スターチス白色系統と黄色系統の2品種の品種登録申請、スイートピー薄紅色系統1品種の品種登録がなされ、産地化を図るための栽培法の検討、関係機関との許諾契約等の調整を進めております。

今後は育成した品種などの県内産地への普及と定着のための栽培法の確立、生産現場に役立つ幅広い技術や品種に関する情報の提供に務め、産地と共に歩む試験研究機関を目指します。